

適期収穫で、全量 2 等以上を目指そう！



☆ポイント☆

- 1 ほ場ごとの登熟状況と黄葉期を把握し、収穫作業の計画を立てる。
- 2 しわ粒発生防止のため収穫適期に達したほ場・団地から直ちに収穫する。
(葉の損傷が大きいほ場は、成熟期が早まる可能性があるので注意)
- 3 倒伏していても、刈り高位置を 10cm 以下に下げず汚損を防止する。

1 当面の栽培管理

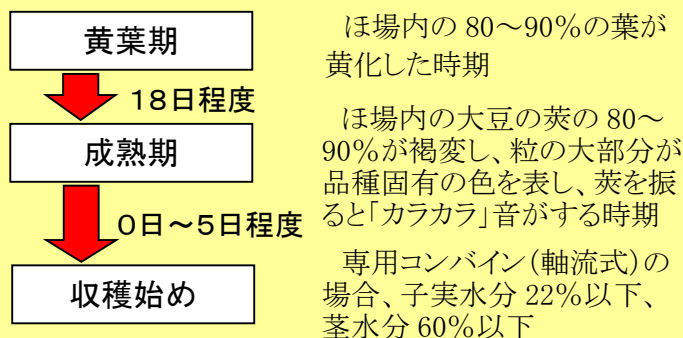
(1) ほ場内の雑草等抜き取り

- 汚損粒の発生を防止するため、収穫前に雑草や青立ち株の除去を徹底しましょう。

(2) ほ場観察による作業計画で適期収穫

- ほ場ごとに大豆の登熟状況（葉の黄化や落葉の状況）を把握し、収穫適期を迎えたほ場から収穫できるよう、作業計画を立て、収穫作業体制を整えましょう。
- 葉などに被害（風によるスレ、病虫害等）を受けたほ場は、成熟期が早まるなど、ほ場間で成熟差が大きくなる場合があります。黄葉期や落葉状況、莢の成熟を把握し、適期収穫に努めましょう。
- 収穫が遅れるとしわ粒（亀甲しわ）が増加します。収穫の目安は成熟期以降に子実水分 22%以下、茎水分 60%以下になった頃です。（次ページ図参照）

【収穫期までのめやす】



岩船地域の黄葉期(推定)と収穫期の目安

品種	黄葉期	収穫期
エンレイ ※1	9/30～ 10/3	10/15～ 10/18
里のほほ えみ※2	10/4～ 10/7	10/22～ 10/25

※1 5月第6半旬頃播種ほ場の場合。

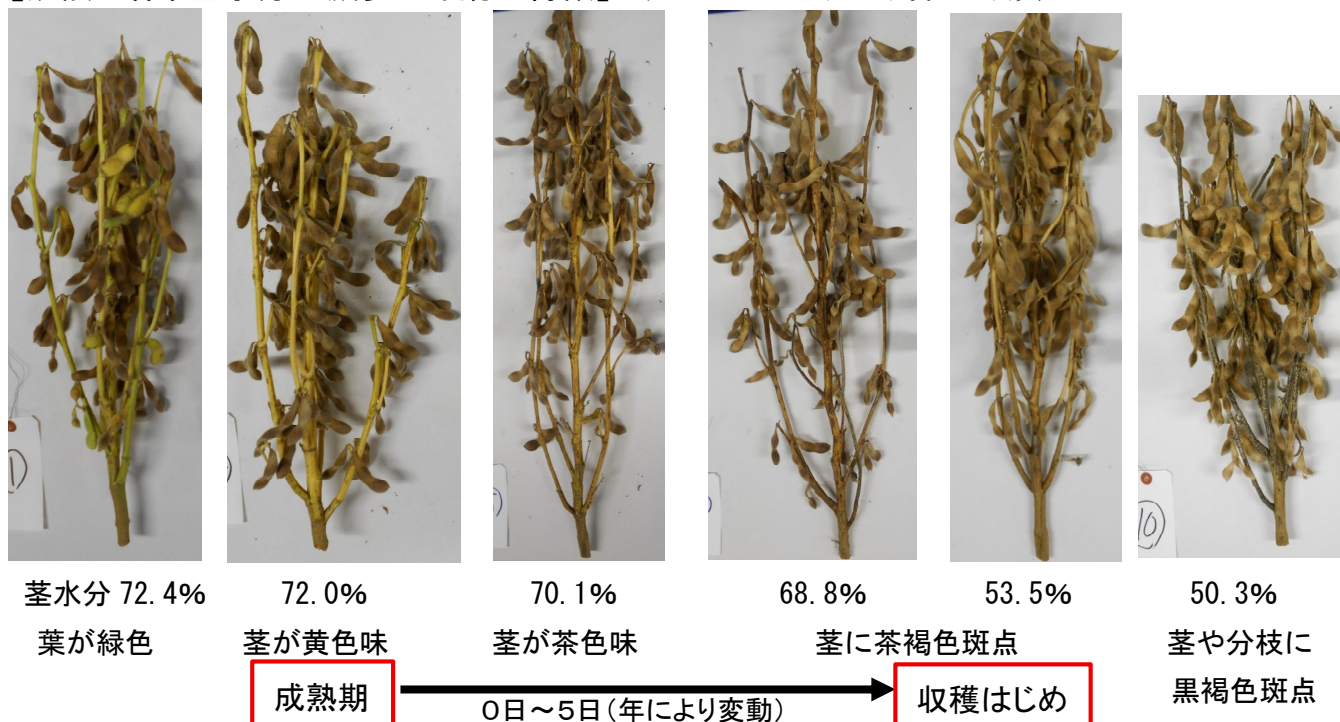
※2 6月第2半旬頃播種ほ場の場合。

【生育の外観と収穫期のめやす】

大豆の収穫が遅れないよう、早めに大豆ほ場の生育状況を確認し、次の表を参考に収穫時期を検討してください。（あくまで目安であり、生育が旺盛なほ場では表よりも遅くなる場合があります。）

観察時の外観の特徴	収穫までの日数 ※エンレイ	収穫までの日数 ※里のほほえみ
ほ場内の 20%程度の葉が黄化しているほ場	21 日	—
ほ場内の 80～90%の葉が黄化しているほ場（黄葉期）	15 日	18 日
葉の黄化が進み、落葉が始まっているほ場	12 日	—
落葉が進み、ほ場内の株の 5 割以上の葉が落葉したと見込まれるほ場	8 日	10 日

【成熟に伴う茎水分の減少と外観の特徴】（里のほほえみ茎水分と外観）



2 収穫時のポイント

しわ粒の発生量を軽減するには、成熟期の早いほ場から適期を逃さずに収穫を開始しましょう。

(1) 収穫時期

- 茎水分が高いと汚損粒が発生するめ、専用コンバイン(軸流式)では、成熟期以降に子実水分 22%以下、茎水分 60%以下を目安に収穫を開始しましょう。
- 刈り始めには、被害粒や刈り取りロスを少なくするため、「刈り取り高さ」、「刈り取りスピード」、「脱粒選別・排塵調整」、「汚損粒・損傷粒の発生」をチェックしましょう。
- 収穫晩限は成熟期後 15～18 日頃までとし、刈り遅れないよう計画的に作業を行いましょう。
- ほ場 1 筆内で熟期の差が大きい場合は、可能な限り刈り分けを行いましょう。刈り分けができない場合は、ほ場全体の概ね 9 割以上が適期に達したら収穫しましょう。

(2) 収穫時刻のめやす

- 前日、当日とも晴天の場合 → 11 時から 17 時まで
- 前日が晴れ、当日が曇りの場合 → 11 時から 15 時頃まで
- 前日が雨、当日が晴天の場合 → 不可能の場合が多い

(3) 汚損粒対策

- 極端に低い位置での刈り取りは避け（刈り取りの高さは 10 cm 程度）、倒伏しているほ場は、「刈り取り位置」と「刈り取りスピード」に十分注意しましょう。
- 収穫時に土をかき込んだ場合は、すぐに作業を止め、エンジンを停止し、安全を確認してから土をかき出してください。

(4) 乾燥・調製時のしわ粒対策

- しわ粒発生防止のため、加温乾燥は子実水分が 20%以下になってから行い、それまでは常温通風で乾燥しましょう。また、乾燥温度は気温+10℃未満とし、30℃を超えないようにしましょう。
- 粒選機は、被害粒等の混入程度に応じて流量を適正に設定して使用しましょう。

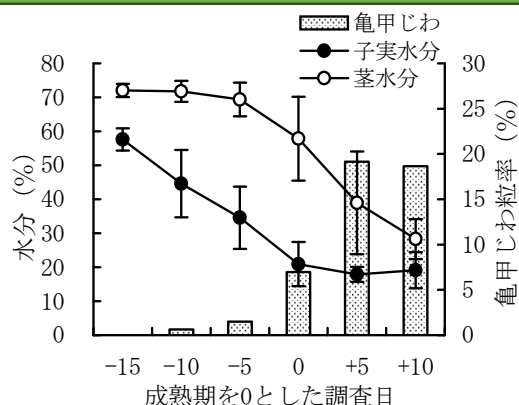


図3 植物体水分及び亀甲じわ発生の推移 (2004～2006年平均、縦棒は標準偏差)

「被害粒等の除去」と「粒揃いの向上」に努めよう！

